

第 8 回科学計測部会議事録(案)

開催日:平成 17 年 6 月 1 日(水) 13 時 30 分～

場所: 海洋研究開発機構・横浜研究所

参加者

[専門部会委員]

村山雅史(高知大)・池原実(高知大)・岩井雅夫(高知大)・林為人(JAMSTEC)・
佐藤暢(専修大)・成瀬元(京都大)・金松敏也(JAMSTEC)

[リエゾン]

STP 委員:岡田誠(茨城大)・笠原順三(東濃センター)・坂本竜彦(JAMSTEC)・
鈴木紀毅(東北大)・難波謙二(福島大)

J-DESC 執行部:石橋純一郎(九大)

情報システム WG 長:坂本竜彦(JAMSTEC)

孔内計測 WG 長:荒木英一郎(JAMSTEC)

非破壊 WG 長:林為人(JAMSTEC)

IO:黒木一志(CDEX)

事務局:山川稔(AESTO)

[欠席]

専門部会委員:布浦拓郎(JAMSTEC)・松林修(産総研)

STP 委員: 阿波根直一(北大)・山本正伸(北大)

議事次第

議事録確認 [配布資料:8-1, 2]

【報告事項】

1. IODP に関する国内外の動向

- (1) SAS(石橋)
- (2) CDEX(倉本・黒木)
- (3) 高知大コアセンター(村山)
- (4) J-DESC(山川)-配布資料:8-7

2. WG 報告

- (1) 非破壊 WG 立ち上げ報告(村山) 配布資料 8-3
- (2) その他 WG 報告(孔内計測, 情報 WG)

3. アクションアイテムの進捗状況(各担当者) 配布資料 8-6

4. その他

【検討事項】

1. 今年度の活動体制(村山)

2. SPT 対応(岡田)

- (1) メンバー体制について 配布資料 8-4
- (2) Action Item への対応 配布資料 8-5

3. その他

議事録

13:45 開会宣言(村山)

・参加者自己紹介

・新メンバー確認

(資料:IODP 国内科学計画委員会専門部会等名簿;名簿を回覧・修正)

0-1 追加配布資料確認

・第 6 回孔内計測 WG 議事録(案)

・Core Description WG 関連事項

0-2 議事録確認 [配布資料:8-1, 2]

・第 7 回科学計測専門部会(2005 年 2 月 22 日開催)議事録承認.

【報告事項】

1. IODP に関する国内外の動向

(1) SAS(資料代読:山川, 配布資料:阿波根報告資料)

(4) J-DESC(山川)-配布資料:8-7

・ SAS 関連:各委員会共同議長, 委員等の候補者について報告,
状況の説明がなされた.

・J-DESC 関連:モンテレー航海延期の経緯報告ほか.

・ JOIDES Journal 相当の Journal が IMI 札幌から刊行予定. 280 件の発送先を
リストアップしているが, 希望者は AESTO に申し出てほしい(出版数 1100 部)

・アジアコンソーシアムについて

質疑応答:

(坂本)J-DESC とアジアコンソーシアムの関係は?

(鈴木)なぜ、ニュージーランドはっていないのか、タイやほかの国は?

(山川)アジアコンソーシアムは、拡大路線のなかにはあるが、予算問題がからむので今後時間をかけて検討を行う。

(佐藤)Information Service Center (ISC)に進展はあったのか?

(山川)サイトサーベイデータベースは競争入札の結果、スクリプスにもっていかれてしまい、今後のISC構想の戦略見直しが重要。

(坂本)旧来のデータベースが移っただけと理解しては?

(山川)IMI 札幌オフィス新任(カナダ)の初仕事は出版物の刊行である。

(成瀬)ISCはいつ決まる?

(山川)事務局に情報はない。

(2)CDEX(黒木)

・「ちきゅう」(7月29日引渡し予定)の現状

(a)研究区画の定期保守活動報告。

(b)「ちきゅう」の海上運転中(12月、2月)の洋上試験結果報告

(ex. 磁気シールド室性能計測:シールド性能 = 3 ~8 mG;

天秤の作動実験:0.1gで約1%の誤差)。

(c)H16年度搭載機器類(コア半割器ほか)搬入状況報告。

(d)今年度ならびに、2007年度運航にむけた今後の目標・予定

質疑応答:

(鈴木)完熟航海の予定は?

(黒木)今年度は下北沖と熊野灘沖が予定されており、現在掘削地点の最終選定中

(鈴木)情報システムWGからRecommendされたデータベースの評価は?

(黒木)下北沖航海をへてJ-CORESをテストする予定

(鈴木)ドラフトの位置等クレームがついていた点について対策は?

(黒木)実際に使用してからの対応、予算にも依存

(鈴木) 微化石関連図書の入荷予定と顕微鏡スペックの専門家による確認はおこなうのか？

(黒木) 約 230 冊については購入予定、顕微鏡等不足部品は追加購入を行い、搬入予定

(笠原) 追加してほしい物性関連の分析機器(加圧しながら P 波速度を測定する測定器)があるが、どうなっているか？

(林) 現状ではコアセンターや船上には準備されていない

(坂本) 本当に必要なら科学計測部会の Recommendation として STP に提出すべきである。

(笠原) 賛否両論があるが、少なくとも地下深部から掘削される岩石の物性測定には必要。

(荒木・佐藤) ルーチンワークとするとするのか否か、するとすれば品質保持は？

(坂本) logging-Seismic Integration には重要で不可欠。

(村山・岡田) logging 部会から STP に問題提起、物性部会が対応策提案。

(林) 「ちきゅう」船上にサードパーティ機器を持ち込めるか？

(坂本) サードパーティ機器を使う場合は、プロポーザルに明記、STP 等が評価を行い、その上で判断する手順である。

(3) 高知大海洋コア総合研究コアセンター(村山)

・全国共同利用申請件数は 20 件、全て採択された(JFY2005 上半期)

・高知大学内の組織改編(附置研等の統合)が検討中であるが、全国共同利用組織としての看板は変わらない。

・IFREE6 のメンバーが高知コアセンターとして研究活動を開始予定。

・JAMSTEC との運営協議会議等で議論をつめながら進めていく予定。

2. WG 報告

(1) 非破壊 WG 立ち上げ報告(村山) 配布資料 8-3

非破壊 WG の設置が認められ、明日(6/2 日)第一回の初会合

(共同 WG 議長:池原研, 林為人)

(2) 孔内計測 WG(追加配布資料)

・孔内長期モニタリング白書作成、予定

(笠原) アクションアイテムへの対応は?

(荒木) 次回, 議事にいれる.

(岩井) 白書出版やワークショップ開催の経費は?

(荒木) 未定

(3) 情報システム WG

- ・J-CORES プロトタイプは高知コアセンターに搬入済み. 3月のコア解析スクールでデモを実施. 6月から開始される地震発生帯の台湾掘削コアの分析に際しテスト利用予定.

3. 科学計測部会アクションアイテムの進捗状況(各担当者) 配布資料 8-6

アクションアイテム 07-01(岩井・鈴木): IMRC 国内合意

- ・MRC の活動を IODP でも続けることについては SPC で認められ, MRC の活動状況や今後の充実課題等については SPC Annual Report として明文化される動き. ほぼ対応済み.

アクションアイテム 07-02(坂本): Core-Logging-Seismic Integration 関連(配布資料:メール)

- ・メーリングリストに流して意見をもとめたが反応ゼロ. 簡略化した資料を準備予定.
- ・ワークショップ開催予定(対応済み).

アクションアイテム 07-03(笠原): サードパーティツール

- ・サードパーティツールの取扱いについては, 倉本氏(CDEX)が IO として対応することになっている. 黒木氏(CDEX)経由で倉本氏に確認してもらう.

アクションアイテム 07-04(岡田)

- ・上海の SSEPs で議論を依頼. 最終的には"Criteria for referring proposals to STP and EDP"のチェックリストにより SSEPs Watch Dogs が確認, 該当プロポーザルは co-chair か

ら IMI 札幌経由で STP へ.

アクションアイテム 07-05(坂本): SODV briefing book 評価

- ・メーリングリストに流したが反応はゼロ. 関係者からも反応なし. 進んでいない.
- Core Imaging (Thermal Imaging) についても意見募集中.

アクションアイテム 07-06(笠原・荒木):

- ・孔内計測 WG の木下委員らに検討を依頼したが, これまで議論はされていない.
- ・中村氏がまとめ, 黒木氏に対応を依頼(6 月 19 日締め切り).

アクションアイテム 07-07(難波): Microbiology ルーチン

- ・航海間やプラットホーム間でのキャリブレーション法については, リン脂質, 全菌数を測定するのが妥当ではないかとの答申(継続審議)

アクションアイテム 07-08(笠原): MBARI 関連

- ・状況が変わった(航海延期)ので, 本部会の手をはなれ IMI 扱い(岡田)(完了)

アクションアイテム 07-09(石橋): MSP 移動ラボ関連, QA/QC プロトコル関連

- ・進展なし. 北極航海乗船者に意見を聞いては?
- ・コンテナラボの minimum requirement を明かせ, という趣旨では(坂本)
- ・対応者: 難波・阿波根・山本. 責任者山本氏から STP 岡田共同議長に提言.
- ・QA/QC プロトコルについては, 各 IO と協力しながら作成をはじめ.

アクションアイテム 07-10(CDEX リエゾン): Laser ablation ICP-MS

- ・レーザーアブレーションファシリティーに関する調査(未)

(以下継続アクションアイテム)

アクションアイテム 06-02

- ・乗船研究者からのフィードバックシステムが必要で、事例集の収集は若手人材教育にもっとも重要な資料(岩井ほか)
- ・リエゾンの石橋氏から J-DESC と協議中、科学計測部会は、科学計測に関する部分について項目あげて提案する。

アクションアイテム 06-03

- ・乗船研究者の資質が最近問題になっており、乗船前教育体制と教育用資料整備が不可欠の状況になってきている(坂本)
- ・必要項目一覧について、たたき台を作成、次回提出(鈴木対応)

アクションアイテム 06-08(笠原)

圧力をかけた試料のデータが出ていない(非破壊計測 WG でも検討)

アクションアイテム 05-06(鈴木):MRC 試料の恒久アーカイブ化手続き

- ・継続中

アクションアイテム 05-07(坂本・林・笠原・黒木・村山):

- ・ Petrophysics WG 関連の測定について、QA/QC プランとキャリブレーション手法について評価する(継続審議)

アクションアイテム 05-08(笠原):

- ・ 漠然とした Action Item . 次回 SPC Recommendation を受けて、具体的対応を考えることで対応 . ペンディング .

アクションアイテム 05-09(岡田・金松):

(完了)

アクションアイテム 05-10(佐藤ほか):

- ・ SciMP Action Item 04-06-16(MSP 移動ラボ)
科学計測部会アクションアイテム 07-09 と重複

- ・ SciMP Action Item 04-06-17 Environmental SEM & Cathodo-luminescence

Environmental SEM は磁場と振動が問題 . Cathodoluminescence 搭載は可能(?) .
キーエンスのコンパクト SEM はデモ機を船に載せることが可能(黒木)

- ・ SciMP Action Item 04-06-18

ICP-AES と ICP-MS の前処理に用いる MicroWave について調査 (IO が検討中)

- ・ SciMP Action Item 04-06-21 (ブラインドキャリブレーション)
アクションアイテム 07-10(QA/QC) に統合検討中

- ・ SciMP Action Item 04-06-20 GC 安定同位体測定
困難であろう . GC-MS の可動が先決 .

アクションアイテム 05-11(坂本・黒木) :
現在メールベースで議論中 .

アクションアイテム 05-12(笠原・岡田) :
サードパーティーツールに関する development Guideline の作成について議論中 .

4 . その他

【検討事項】

1 . 今年度の活動体制(村山)

メンバー案 配布資料 8-4

STP 前後に開催, 年 4 回程度開催予定. 下半期の予算確保を事務局に依頼

2. STP 対応(岡田)

(1)メンバー体制について 配布資料 8-4

- ・SciMP が STP に改組されたことにより, co-chair 制度から chair & vice-chair 制度に変更, US メンバーと Japan メンバーが交互に議長をつとめる.
- ・STP メンバーの急激な入れ替えを避けるために対策が必要. 同時期の委員交代は 2-3 名以内に収めるべき(岡田)
- ・STP メンバー候補者も公募制導入の方向で検討を開始する. ただし国際パネルメンバーは国内委員会委員として経験をつむことが望ましい.

(2)ActionItem への対応 配布資料 8-5

- ・報告 3 で議論済み

3. その他

(1)Core-Logging-Seismic Integration(坂本)について

- ・現在メールベースで議論されている CLSI Recommendations について概要説明, 意見交換.
- ・Recommendation 03 は time-to-depth conversion methods が万能であるとの誤解をあたえる危険性あり. 削除を要望. (笠原)
- ・削除する. 代わりに加圧弾性波速度測定を Recommendation 03 として加えたい(より良い Logging-Seismic Integration のために必要). (坂本)
- ・加圧弾性波速度測定の重要性については, 笠原委員に次回 STP でプレゼンテーションしていただいてはどうか(坂本)

- ・パネルメンバーに理解を促す上では大切である(岡田)
- ・15 分程度の発表は可能(笠原氏ほか非破壊 WG で検討)

(2)Core Description Working Group (坂本)

- ・SODV brief book の Imaging 関連項目について改定案を作成中 . 一部は佐藤委員・成瀬委員に分担依頼し , 本人の了承を得た . 他メンバーからも積極的な意見を募集 .

(3)コア解析スクール報告(池原)

- ・3月に実施 , 参加者 : 30 名 (院生以上に限定) . 学部生希望者は次回 8 月に開催する基礎コースで実施予定 (すでに 15 名登録済み) .
- ・MSC や分光側色計など機器計測の概要ならびにスミアスライド観察等を実習 .
- ・参加者の感想は HP に掲載中であり , 結果は , おおむね好評 .
- ・今後春と夏に実践編・基礎編を実施予定 .
- ・J-CORES のデモも行った .
- ・今後 , 乗船予定者はいずれかの解析スクールに参加するようにしては?(坂本)

カッピングスを利用しよう(北大発) .

カッピングスの研究利用の可能性に関する検討を行う .

次回 STP は、7 月 11-13 日 (Bremen)

次回 , 第 9 回科学計測部会開催は 7 月 21 日 (木) @東京連絡所 (予定)

以上